

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(北海道教育大学)

活動名	北海道教育大学教職大学院フォーラム 「いじめ いのち 学校」～いま、学校の在り方を問い直す～
対象者	小・中・高等学校の教職員
実施期間	平成24年12月16日
活動場所	北海道教育大学 各キャンパス（双方向遠隔授業システムにより配信）
教員名（専門分野） 関係者等	福井雅英（北海道教育大学教職大学院教授） 川島大輔（北海道教育大学教職大学院准教授） 北海道教育委員会 札幌市教育委員会
参加者数	約250人
活動の目的	いじめを巡る問題が全国的に教育課題となっており、学校としても、いじめに関する認識を深め、早期発見や適切に対応できる組織体制づくり及び命を大切にす教育の推進が求められていることから、本フォーラムを開催し、全道の教職に携わる方と「いじめ」「いのち」について一緒に考え、改めて学校の在り方を問い直していく。
成果	
<p>【活動内容】</p> <p>◆基調提言</p> <p>「いじめ・自殺が突きつける課題を学校はどう受けとめるか」 北海道教育大学教職大学院教授 福井 雅英</p> <p>「いのちの危機に教師はどうかかわるか～自殺予防教育の観点から～」 北海道教育大学教職大学院准教授 川島 大輔</p> <p>「釧路市立青陵中学校の取組」 釧路市立青陵中学校教諭 新井 真人</p> <p>◆各キャンパスの参会者による意見交流</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(弘前大学・教育学部)

活動名	教員免許状更新講習会でのいじめ、ネットいじめ問題の講演
対象者	教員
実施期間	毎年夏期と冬期
活動場所	学内
教員名（専門分野） 関係者等	大谷良光(技術教育・生活指導)
参加者数と科目名	<p>○「いじめ・ネットいじめ・ケータイ問題のABC」 2011年度-145名、2012年度-170名</p> <p>○「小学生の問題行動と学級集団づくり」 2011年度-80名、2012年度-56名</p> <p>○「中学生の問題行動と学年集団づくり」 2011年度-68名、2012年度-50名</p>
活動の目的	教員の生徒指導改善への示唆と、いじめ問題への考え方、対応について深める
成果	実施後アンケートで受講教員から高い評価を得た(どの科目も毎年5段階で4以上)。
<p>【活動内容】</p> <p>「いじめ・ネットいじめ・ケータイ問題のABC」 「小学生の問題行動と学級集団づくり」 「中学生の問題行動と学年集団づくり」 について講演を行った。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(岩手大学・教育学部)

活動名	岩手県いじめ根絶緊急研修会
対象者	・各市町村立小中学校等の生徒指導主事または主幹教諭（学校悉皆） ・各市町村教育委員会担当者（委員会悉皆）
実施期間	平成24年10月15日 平成24年10月16日午前 平成24年10月16日午後 平成24年10月17日 平成24年10月29日 平成24年10月31日
活動場所	上記期間の上から順に 盛岡市勤労福祉会館（盛岡市） 宮古地区合同庁舎（宮古市） 大船渡市総合福祉センター（大船渡市） 久慈地区合同庁舎（久慈市） 東山地域交流センター（一関市） 岩手県生涯学習推進センター（花巻市）
教員名（専門分野） 関係者等	山本奨（学校臨床心理学）
参加者数	600人（上記6会場の合計）
活動の目的	岩手県教育委員会がいじめ根絶の趣旨で企画・開催した緊急研修会に、アドバイザーとして出席し、「いじめの根絶に向けた組織体制の構築について」のテーマにより講演を行いました。これによりいじめ問題を理解し対応する上で必要となる臨床心理学的知見とその構成・実現方法に関する知見を県内各校に周知することをとおして、県内のいじめ問題の解決に寄与することを目的として取り組みました。
成果	・対象者となる県内すべての小中学校及び教育委員会から担当者の出席を得ることができた。 ・参加者は本研修会で得た知見を所属学校内で伝達研修を行い、すべての教職員にいじめ問題解決の要点を周知することができた。
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 趣旨説明（県教育委員会委員長） ◆ 「県内のいじめの状況と課題について1」（県教育委員会学校教育室主席指導主事兼生徒指導課長） ◆ 「県内のいじめの状況と課題について2」（県教育委員会学校教育室指導担当指導主事） ◆ 講演「いじめの根絶に向けた組織体制の構築について」（岩手大学教育学部 山本 奨） ◆ グループ協議（各教育事務所生徒指導担当指導主事） 	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	大潟村教育振興大会 教育を支える村民の集い
対象者	保育園・小学校・中学校教員・保護者・教育関係者
実施期間	平成 24 年 11 月 1 日
活動場所	大潟村村民センター
教員名（専門分野） 関係者等	高橋一郎（大潟村教育長） 丸山岳人（大潟小学校長） 関谷正人（大潟中学校長） 柴田 健（秋田大学 臨床心理学）
参加者数	50 名
活動の目的	大潟村教育の一層の充実振興を図るため、村民及び関係者が相集い、教育の今日的な課題について理解を深め合う。
成果	いじめ問題に対する啓発の一助になったものとする。
<p>【活動内容】</p> <p>開会式</p> <p>講演「思春期と対人関係：その理解と対応の方法について」柴田健</p> <p>パネルディスカッション「いじめ問題を考える」</p> <p>パネリスト：柴田健・高橋一郎・丸山岳人・関谷正人</p> <p>質疑</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	いじめ問題プロジェクト—研究発表・模擬裁判・シンポジウム—
対象者	研究者、教育関係者、児童生徒、学生、市民等
実施期間	2013年3月3日(日)、他、それ以降にDVD・報告書・HP公開
活動場所	秋田大学創立60周年記念館(教育文化学部3号館145教室)
教員名(専門分野) 関係者等	井門正美(学校教育学、社会科教育学、社会システム論) 法と人間科学(代表仲真紀子、法教育班久保山力也)研究者メンバー
参加者数	250名(予定)
活動の目的	「いじめ問題発生」を抑制し、発生した場合にも、真摯な姿勢で立ちか い、適切な問題の解決を行うことの出来る市民の資質と能力を培うため の研究と実践を行う。
成果	まだ実施していないが、こうした研究と実践を通して、上記目標を達 成できると考える。 2013年3月3日の行事と共に、この行事やこれに至る学生の研究活 動をDVDや報告書の作成、ホームページでの公開を通して、社会のい じめ問題に対する理解を図り、同時にその問題解決方法を提供するもの となる。
<p>【活動内容】</p> <p>2013年3月3日 いじめ問題プロジェクト—研究発表・模擬裁判・シンポジウム—</p> <p>会場 メイン会場教文3-145 控室等3-146 150</p> <p>午前 学生による調査報告「いじめをどう防ぐか—テーマ別報告—」</p> <p>①いじめ事件の総合的調査報告班 ②ネットいじめ・学校裏サイトの調査報告班 ③いじめ防止条例の調査報告班 ④いじめ防止プログラムの調査報告班(国内外) ⑤模擬裁判実施班(いじめPTSD事件調査と模擬裁判)</p> <p>午後 いじめ模擬裁判とシンポジウム</p> <p>いじめ民事裁判—学生と弁護士による模擬裁判—*1 いじめシンポジウム—模擬裁判を踏まえて—</p>	

【活動内容】

2013年1月5日（予定） ABS 秋田放送特別番組内に紹介予定

橋本五郎氏と学生によるいじめ問題討論

（2012年12月17日の取材が番組のオムニバスの内容として公開される予定）

次年度前期までに いじめ問題プロジェクトのDVD・報告書作成と公開

新学術領域「法と人間科学」(<http://law-human.let.hokudai.ac.jp/>)

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	チャイルドライン秋田：電話受け手養成講座講師
対象者	電話相談の受け手
実施期間	1年に1日、2時間程度の講習
活動場所	秋田市文化会館など
教員名（専門分野） 関係者等	佐藤 修司（教育法学）
参加者数	毎年度10～15人
活動の目的	チャイルドライン秋田で、子どもからの電話相談の受け手を養成する。
成果	電話の受け手の能力向上や意識啓発につながっている
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの権利条約についての解説：歴史や精神 ○子どもの声を聞くこと、聴くことの課題 ○ディベートを通じて、子どもの心を考える <p style="padding-left: 40px;">テーマは、いじめ・少年非行に厳罰化は有効か否か 体罰は是か非か：完全否定か一部容認か</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	学校教員への研修
対象者	教師
実施期間	2012年8月7日、9日、10日、11月17日
活動場所	教員免許更新講習、教員免許法認定講習の会場
教員名（専門分野） 関係者等	姫野完治（教師学、教育方法学、教育工学）
参加者数	8月7日：90人×2、8月9日・10日：25名 11月17日：80人×2 計365人
活動の目的	教員の力量向上
成果	日常的に教師が教育活動を遂行している中では追いつかない情報化に伴う子どもの現状を伝えることができている。試験においても、情報化の項目について初めて知ったと回答する教師が多い。
<p>【活動内容】</p> <p>本授業では、子どもの変容、学力向上、情報化への対応、校内授業研究の実践に関する講義を行っており、その一部として情報化に伴ういじめや学校裏サイト、スマートフォンの進展による新しいコミュニケーションについて解説している。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	高校生への模擬授業
対象者	高校1年生
実施期間	2012年10月31日
活動場所	秋田大学
教員名(専門分野) 関係者等	姫野完治(教師学、教育方法学、教育工学)
参加者数	50名
活動の目的	大学進学を目指す高校生のキャリア教育の一環
成果	大学の授業への興味関心の向上、情報化社会に生きる自分の情報モラルの振り返り
【活動内容】 高校生がキャリア教育の一環として、大学の授業を受ける模擬授業を行った。その中で、高校生の身近な題材であるコミュニケーションツールの使用に関する内容を取り上げた。mixi や facebook、アメーバピグ、2ちゃんねる、ニコニコ動画など、高校生自身が利用するコミュニケーションサイトのメリットとデメリットを例に挙げながら、ネットいじめの実態や対策について講義と演習を行った。	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(秋田大学・教育文化学部)

活動名	大潟村教育振興大会 教育を支える村民の集い
対象者	保育園・小学校・中学校教員・保護者・教育関係者
実施期間	平成 24 年 11 月 1 日
活動場所	大潟村村民センター
教員名（専門分野） 関係者等	高橋一郎（大潟村教育長） 丸山岳人（大潟小学校長） 関谷正人（大潟中学校長） 柴田 健（秋田大学 臨床心理学）
参加者数	50 名
活動の目的	大潟村教育の一層の充実振興を図るため、村民及び関係者が相集い、教育の今日的な課題について理解を深め合う。
成果	いじめ問題に対する啓発の一助になったものとする。
<p>【活動内容】</p> <p>開会式</p> <p>講演「思春期と対人関係：その理解と対応の方法について」柴田健</p> <p>パネルディスカッション「いじめ問題を考える」</p> <p>パネリスト：柴田健・高橋一郎・丸山岳人・関谷正人</p> <p>質疑</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福島大学・人間発達文化学類)

活動名	あそび塾きんこん館（特定非営利活動法人きんこん館）
対象者	不登校児童・障害児等
実施期間	2002年4月～至現在
活動場所	福島市
教員名（専門分野） 関係者等	松下 行則（道徳教育，生活指導）
参加者数	20名程度の募集
活動の目的	特定非営利活動法人きんこん館は、「児童は人として尊ばれる」とした児童憲章の精神に則り、障害のあるなし、不登校であるなしに関わらず分け隔てなく、すべての児童が放課後と休日の生活を豊かに過ごせるように、文化活動、スポーツ活動、社会・自然体験活動を通じて交流しあい、差別したりされたりしないで共生する地域の一員として成長していく礎を築くとともに、その様々な文化・社会・自然活動の機会を通して、家族や地域の方々と協力しあうことによって、地域福祉の増進を図り、社会に寄与することを目的とする。この目的に従い、障害児や発達支援が必要な児童生徒の学童保育の場としてその活動を展開している。
成果	障害児等を受け入れる学童保育の場が確保しがたい現代社会のなかにあって地域にとって必要不可欠な活動の場を提供しており、多くの保護者から「新しい学童保育」の場として理解されている。
<p>【活動内容】</p> <p>障害児等を受け入れる学童保育の場が確保しがたい現代社会のなかにあって、健常児だけでなく発達支援が必要な児童や障害児等の「居場所」としても機能する「新しい学童保育」活動を展開し、地域社会にとって必要不可欠なものとなっている。</p>	